



あいさつをしてもらう子から、 進んであいさつをする子に

白岩前校長先生は、毎朝、校門に立ち児童を迎えておられました。おかげで、4月から一月あまり、同じように児童に「おはようございます。」と声をかけると、必ず返事が返ってきます。うれしくて気持ちがよくて、楽しい時間です。中には、立ち止まって、丁寧にお辞儀をして、さらには、目と目を合わせて笑顔で・・・と素晴らしいあいさつをしてくれるので、毎朝元気をもらっています。

5月になって、目を見て1～2秒待つと、なんと、子どもたちは、自分の方から「おはようございます」と声をかけてくれます。教師が率先して子どもたちに挨拶をすることが当たり前と思っていましたが、大勢の子どもたちは皆、自ら進んで挨拶ができます。これまで、私は、誰かが声をかけないと挨拶ができない子にしていたのではないかと大いに反省させられました。

このように、子どもたちの中に良いもの、優れたものが育まれていること、その良さ・素晴らしさを信じてほんの少し待つことが子どもたちの力を引き出すことになると思えます。進んで行動することを阻害していたのは、案外私たち大人なのかもしれません。

元氣な挨拶の音がこだまする今日この頃。うれしい限りです。

カルミア

北アメリカの減産で、アメリカシャクナゲの和名があります。春にピンクの変わった形の花を開きます。

今月の生活目標

- 廊下や階段、オープンスペースを静かに歩こう
- 名札をつけよう

話し合って決めることの意義

各教室をまわると、下のようなメッセージが3年生のオープンスペースに貼り出されていました。3年生は、今年、山棟に移動し、広々としたオープンスペースで大はしゃぎ？したのでしょうか、自分たちで10分休憩の過ごし方を話し合って決めたようです。子どもたちのたどたどしい文字に決意のほどがうかがえます。

新学期は、あたらしくルールを決めていく時期です。何でも先生に言われて、行動するのでなく、困ったことがあれば、自分たちで対策を話し合って決めることはとても大切なことです。自分たちのことは自分たちで決めて守る、自主性の第1歩を3年生が実践していることに感激しました。さて、成果のほどはいかがかと期待して待っています。

集団下校訓練

6年生が低学年の子の手を引いて下校します。時々、リーダーさんが後ろを振り返って、続いて歩いているか、皆の様子に気を配ります。

入学式の日、6年生に話しました。「6年生として、人のために役に立つ行いの一番最初が今日の入学式です。」と。あれから、何度となく他の人のために動く6年生。気づかないうちに自分の中に宝物が育まれています。



10分休けいの過ごし方

<今まで>

- ・ケシバミなどあそんでいる。
- ・オープンスペースであそんでいる。
- ・今までおいしい
- ・教員のオープンスペースをまわりまわ。



<これからどうするか>

- ・そのほかの

・トレお茶

・しすかに遊ぶ

・5分前にはいれて先生を待つ

・学習書などを見る

・友だちと話をあそびる